

わたしたちの人権

228

誰もが人間として生きていくうえで
侵すことのできない当然の権利
これが『人権』です

人権作文の紹介（令和五年度）

今月は、矢部小学校六年 松田
煌央さんの作文をご紹介します。

黄色いリボンで思いよとどけ

私の学校では、リボンの日という活動を行っています。これは、狭山事件という、部落差別を受けていた石川一雄さんが深く関わっており、『差別をなくし、人権について考える』こと、そして『今、自分にできること』を考え、行動することを目的とした活動です。私は、その黄色いリボンに「勇気を出して行動する」と書きました。どうしてこの言葉を黄色いリボンに書いたか、紹介します。

人権旬間がありました。私が一番心に残った学習は、北代色さんの学習でした。その人が初めて書いた手紙を見たとき、小学生で字が雑なのかと思いました。だから、七十歳の人が書いたと知ったとき、驚きました。

先生の話を知ると、その場所に住んでるだけで差別をされ、文字を学ぶ機会が奪われてきたそうです。それでも、どんな困難にもたじろがず、識字学級で勉強を重ね、手紙を書けるようになったそうです。字を書けるようになって、「タヤけが美しい」と思うようになったそうです。できないことができるようになったとき、私もうれしいときがあります。苦勞が報われたときは誰でもうれしいと感じる



と思います。だから、努力を積み重ねて字を書けるようになった北代さんは、本当にすごいと思いました。

次に心に残った学習は、友達の『まだできないこと』についての話です。私も含めた四人が発表しました。話を最後まで聞いて、その人の意外なところがみつけれられたと思います。外でみせる自分と心の中ではちがいがあり、それをみんなに知ってもらうことが仲間づくりの『第一歩』につながると考えました。この学習では、「相手を知り、自分を知ることや、「勇気をもって考え、行動すること」がとても大切で、それを「行動にうつす」事が今できる正しいことだと気づきました。

一人は「手を挙げて発表すること」と、一人は「いやなことをいやと伝えること」。一人は「人をバカにしないこと」、私は「勇気を持って行動する」ということをできるようになりたいと思います。みんなの前で発表しました。

私は黄色いリボンに『勇気を持って行動すると書いています。』理由は、自分の伝えなかったことを相手に伝えたら嫌な顔をされて、それ以来伝えることをこわがっていたからです。友達の発表、そして私の発表が終わったとき、『勇気を持って行動する』ことが、今、自分のできる『人権について考え、行動する』ことだと思い、黄色いリボンにそう書きました。

私は、まだ「勇気を持って行動する」ことが完全にできているわけはありません。ですが、この人権学習で学んだことや気付いたことを普通の生活でいかすことはできていると思います。だから、自分のまだできないこと『勇気を持って行動する』ことを普段から心がけて生活できるようにしたいです。

自分の人権を守り
他人の人権を守る
責任ある行動を



©2010 熊本県くまモン